

社会委員会通信

No. 62

2024. 1. 14

発行：横浜港南台教会 社会委員会

〒234-0054

横浜市港南区港南台 7-8-29

Tel : 045-833-5323 Fax : 045-833-6616

神様が差別をしておられないから、私たちも差別してはいけないのです。差別してしまう自分を恥ずかしく思い、その都度、差別する心を捨てる者となりましょう。

2024年1月7日、在日大韓基督教会 横浜教会の担任牧師・李明忠先生をお招きして、「差別が起こる原因～日本・アメリカ・韓国で感じた差別～」という講演会を主催しました。

上記の言葉が、李先生の講演の要旨です。

率直、かつ明瞭、ユーモアを交えた温かいお話ぶりで、積極的な雰囲気の中での講演でした。

今回、久々に社会委員会では、YouTube 配信なし、昼食の手配、講演会後の茶菓の準備と、以前の形式を取り戻しました。こちらも先生の醸し出す雰囲気と相乗効果をもたらしたかと思えます。

非常に素晴らしいひとときとなりました。

出席して下さった方は41名でした。

講演会に出席できなかった方、また、再度内容をご確認なされたい方にぜひ、『社会委員会通信』をお読みいただければと思います。
(社会委員長：R・A)



差別が起こる原因

～日本・アメリカ・韓国で感じた差別～

在日大韓基督教会 横浜教会担任牧師：李 明忠

◆自己紹介

皆さん、こんにちは。在日大韓基督教会 横浜教会の担任牧師をしております李 明忠(イ・ミョンチュン)と申します。2019年から今まで4年もの間、私を待って下さったのは、この地上で横浜港南台教会の皆さんしかいらっしゃいません。皆さんに主の祝福が豊かにありますように。

私は日本で生まれた在日韓国人3世です。今日は、私が住んでいた時代の、私が住んでいた地域で、私が受けた数少ない差別を皆さんに詳

しくお伝えして、なぜ差別が起こるのかということと共に考えたいと思います。内容は暗い話ですが、暗く話すつもりはありませんので、皆さん身構えなくても大丈夫です。そして今日のゴールは、私の中にも差別心、差別をする心があるということに気づくということです。

私は日本で生まれ、中学を卒業して、すぐにアメリカに留学しました。それは祖母の影響です。日本に住んでいた祖母は、死ぬ前に神様の国のようなアメリカに必ず移住するというすごいビジョンを持っていて、本当にアメリカに

移住しました。大して勉強もしない不真面目な学生だった私は、中学を卒業する時、父親から留学したらどうかと言われて、アメリカに留学しました。その当時、在日韓国人は日本でなかなか就職先がない時代でしたので、アメリカに留学しましたが、勉強せずに散々遊び回って、父親に連れ戻されるという、すごい不真面目な人生を歩きました。その後、イエス様に出会いました。そしてイエス様に声をかけていただいて、牧師になるということで韓国に留学することになり、3カ国を渡り歩いたというか、そういう体験からの話です。

1. 日本において私が体験した差別

辞書によりますと、「差別」とは「偏見や先入観などをもとに、特定の人々に対して不利益・不平等な扱いをすること」と書いてあります。



○私の場合

1) 友達から：小学2年生の時の差別

まず日本で子どもの頃受けた差別について話したいと思います。私が体験したことは、すべての在日韓国人が体験しているというわけではありません。日本で在日コリアンに対する差別は、環境によって全然違います。住んでいる環境、あるいは本人が韓国名を使わず通名を使っていれば、ほぼバレないというか、分かりませんから、よほどのことがない限り、差別に遭いません。

私の両親は本名を使えという考えを持っていましたので、私は日本読みで「リ・アキタダ」という名前前で学校に通いました。韓国系、つまり在日韓国人と呼ばれる人と在日朝鮮人と呼ばれる人は環境が違いますので、一概には言えません。私は本名で、日本で生まれた在日韓国

人です。小学校に入って初めて受けた差別は、友達から受けた差別です。当時小学校では、近所の子どもたちが集まって学校に通っていました。いつも同じお兄さん、お姉さん、友達と通うわけです。すごく仲が良かった小学2年生の、私と同じ学年の友達が近所にいました。彼といつも学校に通っていましたが、ある朝、その集合場所に行きましたら、その友達が私に石を投げながら「朝鮮人来るな」と言うんですね。私はそういうことが初めてだったので、意味がよく分かりませんでした。ただ、すごく寂しく、そのまま泣きながら家に帰って、「朝鮮人来るなど言いながら石を投げられたんだけど・・・」と母親に言うと、「あなたが外国人だということで馬鹿にするお友達もいるかもしれないけれど、あなたは日本で生まれた韓国人だ」と説明してくれました。小学2年生の私には、昨日まで遊んでいたのに、何で友達がそんなことを急に言うのか、よく分かりませんでした。ただ、すごくショックでした。

この差別は親の教育から来ています。私と仲の良いその友達が家に帰って、「僕は李君と遊んでいる」という話をしたところ、彼の母親は、李という名前だからすぐ分かって、「李君は朝鮮人だから一緒に遊ばないように」と彼に言いました。彼は困って、私に石を投げ、こっちに来るなど言ったわけです。彼も苦しいですよ。なぜそれが分かったかと言うと、小学生なので何日か経つと一緒にまた遊んでいるわけです。私が「お前、何であんなこと言ったの？」と聞いたら、「実は、お母さんが李君と遊ぶなって言うんや。だからあんなこと言ったんだ。ごめんね」と言ったので、分かったのです。

多くの差別が親の教育によって植え付けられます。元々持っているものではありません。例

えばヘイトスピーチ。在日韓国人にひどいことを言うのは、在日韓国人は見下げて当たり前だという考えを持っている人たちです。横浜教会ができたのは95年前になりますけれども、その当時、横浜には朝鮮人がいっぱい韓国から出稼ぎに来て働いていました。一番苦しい働きをしていたわけです。日本にとっては、安い賃金で働いてくれるということで、すごく大事な存在だったのですけれども、ひどく当たったわけです。在日韓国人とか朝鮮人は見下げて当たり前なのに堂々と生きているので腹が立つという、ちょっと無茶苦茶な理論ですけれども、そういう考えが親、先代、いろいろな先輩から移っていくわけです。こんな話が今から淡々と続きますが、大丈夫ですか？



2) 教師から：中学2年生の時

2番目は、忘れられない差別の一つです。中学校の社会科の教師から差別を受けました。この先生は、今から思うとすごく変わった先生だったのですけれども、授業中に私を立たせて、クラスみんなにこう言いました。「李の顔を見ろ」と。その時は、「僕は男前だから、先生はそんなふうに言うんだ」と思ったわけですが、先生は「李は外国人だから顔が違う」と言いました。それを聞いて、友達の意味が分からなくて、キョトンとしているわけです。その先生が、日本名の、ある女の子を立たせたんです。「田中、お前も立て」と言ったので、びっくりしました。そして「この田中も外国人だから顔は違う」と言いました。彼女は日本名を使う華僑だったということが後で分かりました。しかし、彼女はそういうことをその当時は隠して日本人として生活する事情もあったわけです。隠して日本人として生活しているのに、この先

生はその情報を分かっているから、みんなの前で立たせて、彼女が外国人であるということをわざわざ教えたわけです。私はよく分からないので、また母に聞きました。「お母さん、実は授業中に立たされて顔が違うって言われたんだけど・・・」と言ったら、母が怒って「それはね、差別されているんだ。どの先生？ 私、学校に電話するから」というわけです。結局、母いろいろ言いましたけれども、その頃、私は真面目な学生ではなくて、差別だと分かった途端に先生の車のサイドミラーを潰しました。今ならニュースになるような不真面目な学生ですね。だから、そのように差別を受け入れながらも、仕返ししたり、ケンカをしたりと、まあ元気な在日の子どもでした。この先生は一定の思想、右翼的な先生だったということを後で聞きました。その社会の先生はいろいろな問題があって、その後辞めることになって、どこに行ったか分かりませんが、いろいろな問題を起こしていたみたいです。

3) 近所のおじさん：下水工事をするにたって起こったいざこざの中で

近所のおじさんと書きましたが、家の裏に住んでおられたおじさんが下水工事をするという時に、この土地の境目で言い争いになることがよくあります。1cm 向こうだとか、1cm こっちだとか。そんな時に、父親といろいろ言い争いになりました。最後に、よく知っている、その近所のおじさんが、「うるさいお前、朝鮮人のくせに」と言ったんです。その時、ショックでした。腹が立つのではなくて、「そんなふうに思われていたのか、この近所のおじさんに！」という、年配の方に根付いた差別を受けました。今私が話したのはすごく昔の話ですから、今が

そうだというわけではありません。皆さん、それは理解してください。

4) 役所、税関：必ずと言っていいほど敬語を使ってくれない

大体関西が多いんですけども、役所に行くとき、敬語を使ってくれません。タメ口で話されるんです。日本語ができないと思われたのだと思うんですけど、それがストレスでした。また、海外に行って日本に帰ってきて税関を通るわけですけど、税関の職員もタメ口です。アメリカに留学していた時に、久しぶりに日本に帰って来てパスポートを出したら、「韓国人！アメリカに何しに行ってたの？」と聞かれたので、すぐにキレて、「お前、俺の友達か？」と言って、ケンカしたことがあります。あれは親切なのか、日本語が分からないからタメ口というのか、分かりやすい言葉でという配慮かもしれませんが、日本で生まれた外国人としては、かなり気分が悪いですね。差別というか、やはりちょっと下に見るといふ部分もあるんじゃないかと思いました。

昔の保険証には「イ・ミョンチュン」と書いてあるんですけども、その下に、別に願ってもいないのに、区役所はいつも（岩本）と通名を載せてくれるんです。私は通名を全然使っていないくて、ずっと「リ」と名乗っていました。大きくなってからは、「イ・ミョンチュン」という韓国読みに変えましたけれども、「リ」なのに、病院は必ず通名を呼びます。必ず「岩本さーん」と言うんです。私は岩本さんと呼ばれたことがないから、大体ずっと座っているんです。なぜ病院の受付の方は通名で呼ぶと思いますか？それは配慮なんです。私の本名を呼ぶと、そこにいる人全員に韓国人だということがバレた

ら可哀想だから岩本と呼んであげよう、という配慮から岩本と呼ぶんです。岩本と呼ばれて嬉しいと思いますか？私は「リ」と呼んでいただければなと思いました。ただ、その優しさは好きです。日本人ならではのね。



5) アルバイト：本名ではまともに面接を受けさせてもらえなかった。アルバイトの時は通名を使った。

その後、私はこの通名をよく使うようになります。バイトの面接を申し込む時、電話で「リ」と言うと、必ず断られます。電話をかけて「アルバイトの面接に行きたいんですけど、名前は『リ』です」と言うと、「もう一杯になりました」と断られました。同じところに声を変えて「岩本」で電話してみました。「あ、う、アルバイトの面接で、名前は岩本です」と言うと、「すぐ来てください」と言われました。通名はこういうふうに使えばいいのだということが分かりました。アルバイトは常に「岩本」でやるようになりました。これも差別と言えれば差別かなと思います。私の父親の代はもっと苦労したと言いますから、どれだけ苦労して、あるいはどれだけ隠れて生きてきたかと思います。

これが、私が日本で受けた、主立った差別です。しょっちゅう差別を受けたわけでもないですし、私の親友はみんな日本人ですし、私は日本生まれ・日本育ちなので、ほぼ日本人のようなものでありますから、昔の人のように苦しい大変な人生を歩んだわけではありません。ちゃんと仕返しはしましたので、今は何のストレスもなく生きています。

2. アメリカにおいて私が体験した差別

先ほど、私は中学を卒業してアメリカに留学

したという話をしました。1980年代後半のことです。本当に昔のアメリカです。皆さんご存知のように、アメリカというのは、特に私はロサンゼルスに行きましたから、国際色が豊かでした。人種も多様で、ごっちゃ混ぜの世界に飛び込みました。

アメリカの差別は、ほぼ全てが人種差別です。肌の色の違いや、出身国も、ほぼすべてがこの差別です。それも、あからさまに差別します。今も中部の田舎の白人たちはすごく差別します。驚くほど差別されます。アメリカは良い国だと言う人もいますけれども、この差別神話はなかなかなくなりません。

アメリカに私がいた時は、障害者に対する権利がすごくしっかりしていました。自分ができるならば、どんな仕事でもできます。私の高校の先生は、車椅子でした。このように、そういう面でアメリカは本当に素晴らしい国でした。人種差別も地域環境により違いがありますので、その時の話として聞いていただきたいと思えます。



1) 学校で (高校・大学)

○違う人種に話しかけてもらえない。

アメリカで私が体験した一番の差別は、学校です。高校と大学に行ったんですけど、違う人種に最初から最後まで話しかけてもらえませんでした。誰も話しかけてくれません。皆さん、信じられますか？ 東洋人はどうするかと言うと、東洋人連合を作るわけです。アメリカに行く、みんな仲が良いですよ。中国人が一番強いので、彼等がいると安心です。ケンカになると、彼等が一番先に突っ込んで行きますから。中国人、台湾人、韓国人、そして日本人、みんないました。アメリカ生活にもかかわらず、

私の友達はみんなアジア人でした。アメリカの写真を友達に見せると、「お前どこに行ったんだ？ みんなおしゃれな服を着た東洋人ばかりだけど、ほんまにアメリカか？」と言うぐらい、アジア人ばかりでした。だから、私達はアジア人連合を作って、白人、黒人、メキシコ人たちに負けないようにと協力するんです。

体育の授業をする前に大きなロッカーがありまして、ロッカーには四つの座るところがあり、そこに着替えるところがあるわけです。上から見ると、色で分かっているんです。一番端が白、白人ですね。次が黒、黒人が集まって着替えるというふうに、セクション毎に壁で仕切られています。体育の授業の前に白人セクション、黒人セクション、茶色セクション。茶色はメキシコ人たち、そしてイエローセクション。私たち東洋人は全然イエローに見えませんが、こうやって分かれるわけです。その着替える時が一番楽しかったです。なぜかと言うと、メキシコ人はすごく陽気で、ちょっかいを出します。その辺にある靴とかを「ビバ・メヒコ」と言いながら投げます。そうしたら、どこかに落ちます。頭に当たったりして、すごく怒るわけです。そしてそれを投げたら、黒人セクションに落ちて、誰がやったんだと言って黒人が出て来て、ケンカになり大乱闘になって警察が来るという、この流れが私は一番楽しかったです。生きている気がしました。アメリカは高校の中に警察が常にいます。警察がいるし、職員室の入口には、銃を持って入れないように、センサーがありました。すごい時代でした。

そんなふうにして、いつもロッカールームでケンカをしていました。恐ろしい世界ですよ。色できっちり分かれる。全く交流がない。また、ずっと馬鹿にされる。白人が一番偉そうにして

いました。「ここは俺達の国なのにお前たちに
住まわせてあげているのだ」と。その次に偉そ
うにしていたのは、黒人たちです。たまにクラ
スで話したり、仲良くなったりする人は個人的
にはいましたけれど、ほぼ他の人種とは交わり
がありませんでした。

○教師にも人種によって接し方が違う人が 多かった。

教師にも、接し方が違う人が多かったです。
黒人の先生は、やはり黒人に優しいですね。白
人にも優しい。東洋人には、あからさまに冷た
い。授業中、寂しかったですね。態度があんな
にも違うものかと思いました。

○食べ物に関しての差別

食べ物に関しての差別は今、なくなっている
んですけど、昔よくアメリカ人に聞かれました。
お前はライスを食べるのかと。お米を食べ
るのかと聞かれる。「お前、あんなものを何で食
べるんだ？」と。今、外国人が「スシ」とか言
いながら食べていると、ちょっと腹が立ちます。
お前たち、昔何言ってたの？ 彼等は「お前、ロ
ーフイッシュ食べるの？」と言っていました。
刺身や寿司ですよ、皆さん。私が会った白人た
ちは、ご飯を食べるということだけでも、嫌が
っていました。生の魚を食べるということで、
私達は怪物のような、普通の人間ではないよう
な扱いをされました。「生の魚を食べるなんて、
お前たちは信じられない。気持ち悪い」とすご
く言われました。皆さん、今寿司を喜んでいる
白人たちを見たら、皆がそうではないというこ
とを覚えておいてください。ただ、箸を持って
寿司を食べる白人を見ると、嬉しかったですね。
お前たちはやっこの味が分かってくれたの

かと。



2) 家に対する嫌がらせ: ティッシュペーパー、 生たまご

独立記念日になると、東洋人が住んでいる家
に嫌がらせをします。アメリカでコロナが流行
った頃に、東洋人が歩いていたら、急に殴り倒
されるという事件がありました。あれ、本当に
よく理解できます。彼等の考え方というか、差
別神話はすごいです。東洋人を見たら、「コロナ
を持って来やがって」と。東洋人には中国人も
韓国人もいろいろあるわけですよ。けれども括
って、知らないで殴り倒す。

7月4日の独立記念日になると何が起ころ
かと言うと、夜中に若者たちがティッシュペ
ーパーを持って来て、東洋人の家の前の庭の木に
ぐるぐる巻きにします。そうしたら、真っ白で
綺麗になります。これは、東洋人がここに住ん
でいるということをみんなに知らせるという
嫌がらせです。これはアメリカ特有の嫌がらせ
です。初めて見た時、びっくりしました。朝起
きて外に出たら、すべての木にティッシュペ
ーパーが巻かれていました。クリスマスでもない
のにどうしてかなと思ったら、理由を教えてく
れました。これは差別です。

その後になんか起ころかと言うと、生たまごを
家の壁に投げつけてきます。皆さん、こんなア
メリカに住みたいですか？ すごいでしょ？
家の壁から生たまごのシミが取れないんです。
壁についたままで洗うんですけど、なかなか
取れなくて、嫌な思いをしました。

3) 在米韓国人から受けた差別

ここでちょっと不思議な話をしたいと思ひ
ます。私は日本で生まれた韓国人としてアメリ

カにいましたけれど、アメリカには韓国から来た移民がたくさんいました。特にロサンゼルスにはたくさんいました。ロサンゼルス暴動の時は韓国人街が襲われて、韓国人たちはみんな自分たちの銃で街を守ったと言います。そういう歴史がありますけれども、私はこの韓国人からも差別を受けました。皆さんは不思議だと思われるかもしれませんが、本国から来ている韓国人は、一生懸命生きていました。そういう時代でした。私はこの韓国人から、最後まで韓国人として認めてもらえませんでした。なぜかと言うと、韓国語ができないということと、日本生まれだからです。日本に対する劣等感が韓国人にはありました。昔だから、日本で生まれた韓国人というだけで、もう同じ国の人間だと思わないんです。ひどいでしょう？ 私はずっと日本人扱いされて、「俺は100%キムチなのに」と、そんな言い方していたんです。「100%キムチが血の中に流れている韓国人なのに、何でお前たちは認めないんだ？ 血統社会じゃないか。この血を見るのがあなた方の特徴じゃないか」と言ったら、「お前は韓国人じゃない」と言うわけです。本当にそれでよく韓国人とケンカをしました。私も両親もおじいちゃん、おばあちゃんも全員100%韓国人なんだと何度説明しても、この韓国人は理解してくれませんでした。すごくショックで、あれから私は本土の韓国人が嫌になりました。ちょっと親しみを込めて、「僕もコリアンだよ」と言ったら嫌がられて、あれからちょっと韓国人に対するイメージが悪くなりました。アメリカのこの差別は何かと言うと、ほぼ肌の色です。そんなことで差別されても、変えることができません。これが差別の不条理さです。努力して変えたりとか、避けたりできないというのが差別の悪いところです。

3. 韓国において私が体験した差別

1) 韓国人と認めてもらえない

韓国において、在日韓国人として差別した話、差別を受けた話をしたいと思います。韓国には、結婚して、韓国のメソジストの神学校で学ぶために行きました。もう25歳ということもあって、そんなに差別を受けませんでした。ただ、韓国人と認められないのは同じでした。皆さん、在日韓国人って可哀想だと思いませんか？ 私の祖国だと言っても、認めないですね。日本で生まれた同胞とは言いますが、アメリカで生まれた韓国人に対しては、憧れの目で見ます。カッコいい。文化的にそうなんでしょうね。

今はだいぶ変わりました。今は韓国と日本は若者たちがインターネットで交流をして、日本に一度も来たことがない韓国の若い大学生とかが日本語を話す時代です。テレビ、漫画、アニメを見て、どんどん勉強します。日本の世界観が好きなのがたくさんいます。私の教会にもそういう留学生がいます。日本語ペラペラだから、今はちょっと違うんですけども。

私は韓国語ができるようになりました。韓国だから韓国語で淡々と友達を説得しました。

「その考え方はおかしいからやめなさい。文化が韓国、つまり言葉ができる、また韓国の文化を知っているというのを韓国人と言うならば、白人でも韓国語ペラペラだったら韓国人か？」と言ったら、「違うだろう」と。「だから、その偏見を捨ててくれ。俺たちは寂しいんだ」と、結構しゃべれるようになって言うと、友達は「ごめん、そんな気持ちだったとは分からなかった」というふうに理解してくれることが多くありました。



2) 外国人登録証：日本と同じように、外国人扱

이었다。

韓国では、在日韓国人が韓国に行くと、外国人登録証みたいなものを持たされます。これも本当に矛盾だと思いましたが、しょうがないですね。日本生まれなので、外国人登録証みたいなものを持って住民登録番号をもらえますが、その番号は全く通用しない、ただの架空の番号です。だから、携帯電話を契約したりとか、家を借りたりとか、全くその当時はできませんでした。ですから、在日韓国人にとって、当時韓国は全然祖国でもないという感じでした。



4. 差別とは

1) 差別の原因

韓国のことはこれぐらいにして、差別とは何かをまとめてから教会について話したいと思います。差別とは何か？ 私の場合はなぜ差別を受けたのか？ 名前が違う、顔が違う、肌の色が違う、言葉がしゃべれない、食生活が違う。こういうことによって差別を人間は受けるわけです。説得力のある真っ当な差別はないんです。差別するべきだということは、この世に存在しないんです。もちろん差別という意味で話しているだけであって、とても悪いことをした人をきちんと判断するとかいうのは差別ではありません。全然違う話で、説得力のある真っ当な「差別」をしなければいけないという理由はないわけです。そのことを覚える者となりましょう。

2) 差別をすることはとても恥ずかしいこと

2番目に、差別をすることはとても恥ずかしいことだということに気づく者とならなければいけません。今まで差別をする人を見ると、当たり前、正しいと思って何の迷いもなく差別

をしてきました。しかし、それはとても恥ずかしいことだということが、私たちはクリスチャンになって、もっと分かりますね。自分が感じる価値観のまま人を判断するというのは、人を裁くという罪に当たります。これは神様しかできないことです。裁くと言っても、ちょっと見下げるとかで、神様がされることと私たちのこの差別は、ちょっと次元が違います。だから、大変な罪に当たるわけです。とても恥ずかしいことです。

3) 差別をしてしまうのは人間の弱さ

3番目に、差別をしてしまうのは人間の弱さで、どこに行っても差別が起こるという悲しいことであります。人が集まると、必ず差別が生まれます。差別は悪い、ヘイトスピーチは悪いなどと私たちは運動もしますけれど、人の差別のことを責める前に、自分の中に差別心はないか？ 自分の中の差別はどうだ？ 彼等よりも差別していないならいいのか？ そういう問いかけが、神の前に生きる私たちには必要ではないかと思います。誰もがこの弱さを持っていることを認めましょう。ひどい差別の話を出して、この人たちは悪いで終わることはいくらかでも可能です。しかし、私の中にも同じような差別する心が溢れています。人を見た瞬間に差別して、人のことを、話を聞いた途端に差別する。そういうところがあるということに気づくことが大切ではないかと思います。

面白いのは、在日韓国人だけで集まると、日本人を差別します。在日韓国人ばかり集まるところに行くと、そこに日本人が何人かいた場合、大体在日韓国人は酔っぱらうと、そこにいる日本人を責めます。日本人代表みたいにいじめるんです。私はそれが大嫌いです。「お前たち、俺

たちがどんな思いをして生きてきたか知ってるか？」みたいな感じで、そこの日本人を泣かすわけです。私はすごい不真面目な人間だったんですけれど、そういうことは嫌だったんです。

ロドニー・キングという方だったと思いますけれども、ロサンゼルスの方々が警察に暴行されるという事件が起きました。暴動が起こった時に、人々は商店を襲うわけです。ロサンゼルスのダウンタウンに韓国街がありました。そこに行って、このコリアタウンを黒人たちが潰そうとしたんです。なぜかと言うと、その当時、韓国人は黒人たちをめちゃくちゃ差別しました。自分のコンビニエンスストアとかに黒人が入ってくると、「黒人、出ていけ」と黒人を差別しました。私も韓国人として言っているんですけれども、本当に黒人を差別しました。今もそれが残っています。

黒人の駐韓米軍と韓国人の女性の間に生まれた子どもは、物凄い差別を受けました。その中で歌手になったのが、有名なイン・スニです。すごい苦労した中で、パワフルでソウルフルな曲を彼女が歌うと、みんな泣きました。そういう方がいましたけれども、当時、韓国人が黒人を差別しまくっていたために、暴動が起こったら、黒人たちはこの韓国街を襲ったんです。仕返しで。この歴史を韓国人は忘れてはいけません。その時勇敢に戦ったとか、そんなカッコイイ話ではありません。

何が言いたいかと言うと、差別された私たちが在日も、ありとあらゆる差別をするわけですよ。私は今日の集まりを、「私、本当に苦労したんです。皆さん理解してください」と終わるつもりはないんです。なぜなら、在日韓国人も差別するし、悪いこともするし、また冷たいし、差別されたからと言って優しいわけじゃないんで

す。きつい人が多い。差別を受けて痛みが分かるから優しいかと思ったら、きつい人が多いです。だから、私はそこで思うんです。差別を受けた、いろいろな歴史があったとしても、大切なのは、自分の中にある差別と闘うことだった。差別がない社会にしてくれという働きは絶対に無駄に終わります。なぜなら、人間は変わらないから。もちろん声を上げる必要はあります。ヘイトスピーチをなくしてほしい言うべきで、言ってあげないといけません。しかし、大切なのは、一人ひとりが自分に差別心があるということに気づくことです。



5. 教会における差別

在日大韓基督教会 横浜教会で感じた差別

1) 在日韓国人・韓国人・日本人の間の差別

最後に、今日は教会でお話しさせていただいていますので、教会における差別について考えたいと思います。もちろん、教会も弱い人間の集まりですので、差別は存在します。それはしょうがないんです。私たちが弱いんだから。

在日大韓基督教会 横浜教会で感じた差別や、見た差別を皆さんとシェアしたいと思います。私たちの教会では、在日韓国人と韓国から来られた韓国人と、そして日本人の信徒さんの間で小さな差別がよく起こります。そのような差別が起こると、私は必ずそれは良くないんだと説得します。み言葉を通して、そうしてはいけないんだということを教えます。どういう差別かと言うと、在日韓国人は偉そうにします。在日大韓基督教会 横浜教会は在日の教会だから、韓国から来た者が偉そうにするなどという、押さえつけモードに入ります。皆さん、反対の立場になってみてください。日本で韓国の教会があると、横浜に来た韓国人がみつけて、教

会に来て韓国語で讃美歌を歌って涙が出て、日本にも韓国の教会があったかと喜んでいるのに、「お前、偉そうにするなよ」と言われたら、どうします？ ここは教会かと思えますよね。そういうことがよく起こるから、み言葉を通して、それは間違っているということを今まで何度もシェアしてきました。さすがにそういうことは、大分なくなりました。やっぱり変われますよ。

また韓国人は、在日韓国人を見て、「韓国語もできないのに、何が韓国人だ」と言うことがあります。あるいは、日本人を差別したりします。教会に来ている日本の方が韓国人を差別したり、悪く言うことは一切ありません。私たちの教会にも日本の方がたくさん通ってらっしゃいます。何か起こると、全然そうではないのに、「あの人は日本人だからこうなんだ」というようなことをよく言うことがあります。その時はすぐに言います。「反対に、そのように言われたら、どんな気持ちか考えてみてください。あの人は韓国人だからと言われたら、気持ちが良いですか？」と。だから、言わないでほしい。

そういうふうに、在日韓国人、韓国人、日本人、またダブル。そういう中で生まれた子どもたちが集う教会なので、そういう小さな差別に私は敏感に反応します。なぜなら、それがまかり通ると、教会ではなくなるからです。教会は在日韓国人のものではなくて、イエス様のものです。在日韓国人が集まれるようにして下さった素晴らしい場所です。特に隣人である韓国人、あるいは日本人も来れるように、イエス様が横浜にわざわざ造られたのです。だから、そういうことを無視してはいけません。



2) 生活環境や出生の違いからくる差別

これは皆さん体験したことがあるんじゃないかと思いますが、生活環境や出生の違いからくる差別です。つまり、今の生活レベルの差です。人間社会ですから、偉い人が来ると、大切にしようと思えますよね。ヤコブ書にちゃんと書いてあります。金持ちが来たらここに座ってください。貧しい人が来たら足元に座れ、お前たち何てことしてるんだって、ヤコブ書に全部書いてあります。しかし、そういう差別が人間社会に必ずあります。身なりがちゃんとできていない、あるいはちょっとホームレス的な人が入って来たりすると、私たちはいろいろな差別心が出てくるわけです。たまに横浜教会に領事とかが礼拝に来ます。すると、何人かの韓国人たち、ちょっとビジネス的な方は、領事が来ると、イエス様が来られたよりも、もっと態度が良い感じですよ。「先生、こちらへ」とかいう感じですよ。私は敢えて淡泊に接します。そして、そういう人たちに普通に接するように言います。領事さんは信仰を持っていらっしゃるから、はっきり「特別扱いはやめてほしい」と言われます。そういうことで収まるんですけど、始めは大騒ぎになりますね。しかし、これは世の中の判断基準です。教会では違います。

今の生活の環境が、世の中的には高いとか低いとか知りませんが、私たちはそういうことを一切持ち込んではいけません。イエス様が私たちを見るように、私たちが兄弟姉妹を見なければいけません。それが教会です。もし社会で立派な人が教会の中でも立派、社会で弱い人が教会の中でも弱いと言うならば、それは既に教会ではありません。私たちがいかに自分たちの中に染みついている差別心と闘い続けるかが、教会の命を保つ秘訣になります。

3) 身体障害者に対する差別

そして3つ目ですね。私たち横浜教会で、これはすごい歴史があるんですけども、身体障害者の兄弟姉妹に対する差別です。ひどい差別をする人はもちろんいません。この教会には障害を持っておられる兄弟姉妹がいます。礼拝中も大声を出すし、ウロウロするし、ある時は一人で讃美歌を歌ったりします。教会に来て喜んでいるわけです。韓国の方々は、礼拝というのはきちんと静かにささげなければいけないという気持ちがありますから、何で彼がここにいるのかというような、「お前、早く出て行け」というすごい目線でその人を見つめます。私はその時、「神様、どうしたらいいですか？」と祈りました。彼は川崎にある教会に行っていたのに、礼拝中うるさいからということで、モニターがついている個室に閉じ込められたんです。私たちの教会は、既に教会で生まれた兄弟姉妹の中に障害を持っている方がいらっしゃったので、礼拝中にウロウロするとか、音を出すとかいうのに、信徒さんが慣れていました。その噂を聞いて、川崎から私たちの教会に移ってきました。しかし、パワフルさが段違い。私が説教していたら、「わー」とか言うものですから、想像を絶する礼拝になりました。大体の人が理解して我慢していました。しかし、最近来た方々、最近教会に属するようになった信徒さんたちはびっくりして、「何なんだ、これは」ということになったわけです。すごく悩みました。その時、み言葉を通して示されたのは何か？ 神様はこうおっしゃいました。「あなた方が願う礼拝は、私が願う礼拝ではありません」と。あなた方が願う礼拝、きちんと静かに集中して、みんな整えられた礼拝、それは悪いことじゃないですよ。しかし、神様は、あなた方が願う礼拝は、私が

願う礼拝ではないということを示されました。神様は、多分みんなと一緒に礼拝することを願っておられるのです。ちゃんとした礼拝をしたいので、うるさいから黙れという心さえも、神様は兄弟姉妹を愛する愛によって捨てなさい、ということを教えてくださいました。そうなる、世界が変わってきました。彼がいると、みんな寝ないから、最高ですよ。一番大事な時に声を出したりするもんですから「何？」という感じで必死になるわけですよ。急に「うわー」とか聖餐式のパン目がけて食べに来たりとかしますから、長老たちはタックルで守って、すごいですよ。

礼拝がうるさくなって、すごく落ち着きがなくなっただけですけど、私たちは生き生きするようになりました。不思議ですね。今でも大変ですよ。説教している者としては、ちょっとシンドイ。「今だけは静かにして！」と言ったら、「あーっ」と言いながら静かになって、大爆笑ですよ。面白いのは、これは最高に恵まれるみ言葉だと言うと、彼は急に「アーメン」と言います。皆さん大変ですけど、「ああ、神様はこれを願っておられたんだな」と思います。実は私達、私も牧師として静かに話を聞いてほしいという自分の願い、自分の思いばかりが礼拝の中に入ってしまって、神様が願われる礼拝をしていなかったんだということに気づいたわけです。

クリスチャンとして差別してはいけない理由として、エフェソの信徒への手紙2章の14節から22節をお読みします。

実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御

自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を減ばされました。キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。

このみ言葉はよくご存知だと思いますが、神様は全ての人を愛し、そしてすべての人のためにイエス様は十字架に架かってくださいました。そこには何の差別もない。シンプルです。私達は外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族にしてくださいと、そのようになれる道を開いてくださったわけです。つまり、私たち教会の主を中心とする集まりは一

つに必ずなれるではなく、もう既に一つなんです。そこまでの理解を持って、この人と私は知らないじゃない、主に在ってもう既に一つなのです。まだお互いに知らないけれど、合わない部分もあるけれど、というところに立たないと、私たちの教会の中から、差別はなくなりません。まあ、一生なくなりません。しかし大切なのは、差別の心が出る時に、クリスチャンとして恥ずかしい。イエス様は私を愛する時に差別されなかった。私を受け入れてくださった。それなのに、私が差別するなんて恥ずかしい。そのように思って、恥ずかしく思わなければいけないわけであります。神様が差別をしておられないから、私たちも差別をしてはいけないのです。シンプルです。

教会の中の差別は少ないですけども、簡単にお話ししました。どうぞ、今日話を聞いた私も含めて、しょっちゅう一瞬にして差別してしまう自分を恥ずかしく思う心が与えられて、それが言葉に出ないように、目つきに出ないように、行動に出ない、そのようなクリスチャンとなりますように。差別する心を捨て、私たち一人ひとり、愛する横浜港南台教会の兄弟姉妹とならんことをイエス様のみ名によって祝福いたします。ありがとうございました。



社会委員会からのお知らせ

- ★今年度も寿地区センター、海員宣教協力委員会、桜本教会に越冬支援献品をお届けできました。皆様のお心のこもった献品、感謝いたします。
- ★今回の講演会は YouTube 配信を行いませんでしたが、YquTube 配信の活用とともに、新たな活動の可能性を見出すことができました。皆様のお支えに感謝いたします。
- ★今後も社会委員会では、平和聖日講演会などを主催していきます。ご要望がございましたら、何なりと社会委員にお伝えください。